

第141回東北地方交通審議会  
船員部会議事要録

令和2年7月31日  
東北地方交通審議会  
船員部会事務局

# 東北地方交通審議会 第141回船員部会

日 時 令和2年7月31日(金) 13:30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員 : 高橋(真)部会長、増田部会長代理

豊田委員、佐々木委員

労働者委員 : 鈴木委員、高橋(雅)委員、奈良委員

使用者委員 : 勝倉委員、白幡委員(欠席)、平岡委員

運輸局 : 寺川海事振興部長、丹藤海事振興部次長

菊池船員労働環境・海技資格課長

斉藤船員労政課長、鈴木専門官、渡邊労政係長

## 議 題

(1) 管内の雇用等の状況について

(2) その他

## (資料)

- 資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料(5月分)
- 資料2 新規求人・求職数(東北管内:3年対比)
- 資料3 有効求人・求職数(東北管内:3年対比)
- 資料4 新規求人・求職数(全国)
- 資料5 有効求人・求職数(全国)
- 資料6 有効求人倍率(東北管内)
- 資料7 有効求人倍率(全国)
- 資料8 船員の特定最低賃金の改正に関する検討資料

参考資料 令和2年度 東北地方交通審議会船員部会 開催予定日  
海技者セミナー参加事業者募集プレスリリース  
東北運輸局業務案内2020

## ◎開 会

[寺川海事振興部長から前回の宿題である「海事事業者に対する特別な支援」について説明]

### 【丹藤海事振興部次長】

それでは、ただいまから第141回船員部会を開催させていただきます。

議事に入ります前に、今月7月の部会から委員の交代がありましたのでお知らせいたします。労働者委員の熊谷委員の後任として、奈良委員が新しく委員に任命されました。

ここで、奈良委員からご挨拶を賜りたいと思います。奈良委員、よろしく願いいたします。

### 【奈良労働者委員】

[挨拶]

### 【丹藤海事振興部次長】

[第141回船員部会の成立状況について報告]

[配付資料の確認]

## ◎議 事

(1) 管内の雇用等の状況について

### 【高橋（真） 部会長】

それでは、議事に入ります。

お手元にあります議事次第の「議題（1）管内の雇用等の状況について」、事務局から報告をお願いします。

[斉藤船員労政課長から資料1から資料7に基づき報告]

### 【高橋（真） 部会長】

ありがとうございます。

ただいまの報告について、何かご意見ご質問等ありますでしょうか。

### 【奈良労働者委員】

資料6と資料7の全国と東北の求人倍率の表ですが、資料3の商船と漁船の内容を見ますと、今説明にあったとおり商船は平均で倍率が0.5くらいです。一方、漁船は平均して、少なくとも倍率は1.5以上あると思います。そうであれば、業種が全く違うので、それをひとまとめに0.92と言うこと自体どうなのかなと思います。

す。資料のつくり方を含めた考え方ということで意見させていただきました。

**【斉藤船員労政課長】**

その辺、工夫して、何かいい出し方があるか検討したいと思います。

**【高橋（真）部会長】**

商船と漁船は、もともと違うものだが、商船と漁船の統計を別につくっていて、この3つの資料で分かるので、別に足したから悪いということでもないと思います。漁業全体、船全体でどうなっているかというのを見るためには総数はやはり必要なので、漁船は漁船、商船は商船で分けて資料を説明されていることから、私はあまり問題ないと思います。

**【勝倉使用者委員】**

今、有効求人倍率が、今年に入って5月6月は右肩下がりの傾向が見られるという話でした。陸上でもそうですが、雇い止めが3万人、4万人となって、つまり、求人が減るということは雇い止めの数もそれなりに増えてきていると思いますが、そういった今年に入っての雇い止めの数の推移というものは把握されているのでしょうか。

**【斉藤船員労政課長】**

漁船について、そういう雇い止めのデータは、ありません。

**【高橋（真）部会長】**

資料の数字よりも、今、勝倉委員が話したように、資料の中に入っている情報、下がっている理由というのを、調べていただき報告していただきたいと思います。極端に下がっているとか上がっているということは、何かその理由があるのではないかと思われるので、調べられるのであれば、説明をいただくと助かります。

**【斉藤船員労政課長】**

分かりました。

**【高橋（真）部会長】**

今、奈良委員から、この資料に関してのつくり方の話が出ましたが、ほかにご意見はありますか。

**【奈良労働者委員】**

私が言っているのは、商船と漁船で、あまりにも倍率の数値に開きがあるので、もう少し分かりやすい資料をお願いしたいということです。

**【高橋（真） 部会長】**

具体的にはどういうことですか。

**【奈良労働者委員】**

商船と漁船を分けたグラフも入れたらいいと思います。

**【増田部会長代理】**

3本にするということですか。

**【奈良労働者委員】**

そういうことです。別にその合計の平均を否定しているわけではないです。

**【斉藤船員労政課長】**

商船と漁船を分けるということですね。分かりました。

**【高橋（真） 部会長】**

ほかにありますか。

**【増田部会長代理】**

資料4のグラフは、年度を超えて横に1本になっていて、これぐらい長期のものもそれなりに見やすいですが、もう一つ、資料3の管内のほうは4月から3月になっていて、前年同月比の比較ではこっちのほうの方がやりやすいので、これを使い分けている理由は何かあるのでしょうか。

それぞれ一長一短なので、何かトレンドがあるようにも見えます。

**【高橋（真） 部会長】**

今、増田委員が話したように、全国のほうは平成29年から3年間くらいを見られるようになっていますが、管内のほうは1年間だけなので、逆にいえば数値はあるので全国のように3年分というふうに広げてもらったらどうでしょうか。

**【増田部会長代理】**

資料3の管内のほうは、4月から3月の積み重ねのグラフになっているので、前年同月比はどうだったのかというのはこっちのほうが見やすいです。

**【高橋（真） 部会長】**

面倒かもしれませんが、両方つくってもらえますか。

両方をつくってもらうというか、全国は1本で構わないけれど、管内のほうはこれにあと全国版のような数年分のものをもう一個つくっていただきたいと思います。

**【齊藤船員労政課長】**

データはあるので、大丈夫です。

**【高橋（真） 部会長】**

よろしいですか。

**【増田部会長代理】**

もう一点、今さら的な質問ですが、求職と求人が両方存在するのに、そのマッチングのミスマッチが起こったり、摩擦があつてなかなか望ましいところにたどりつかないということだと思いますが、実際にそれが長期に及ぶというのは、この船員の市場でいうとどこが一番の特徴だと考えればいいのでしょうか。やはり場所とか、給料とか、条件がなかなか合わないということでしょうか。

**【齊藤船員労政課長】**

各地の職業相談員の方にいろいろ頑張っていていただいています。その方々の報告を見ますと、たまに陸上のほうから未経験者の方が来られる場合もあるそうですが、やはり企業側としては、経験者、即戦力、あるいは新卒者のほうをどうしても優先してしまうので、せつかく陸上のほうから来てもミスマッチとなり、なかなか成立しないという報告もありました。

**【増田部会長代理】**

分かりました。やはりマーケットのところが少しくまかないということですね。

**【高橋（雅） 労働者委員】**

資料1の3ページ目の求人のところ、漁船のその他、前月が3で今月12ですが、この内容を教えていただけないでしょうか。

**【齊藤船員労政課長】**

確認し、次回、回答させていただきます。

**【高橋（真） 部会長】**

では、そのほかありますか。

**【平岡使用者委員】**

今資料の話が出ましたが、商船、内航船においては機関部の船員不足というのが深刻な問題になっています。最近では景気が悪化し、コロナの影響で係船が出て、甲板部のほうは大分緩んだという情報もあるのに、機関部だけはもうどうにもならないということで、その辺の実態というのが分かる資料をもしつくれるのであれば、ご検討いただきたいと思います。

**【鈴木労働者委員】**

それは漁船のほうも、同じです。

**【勝倉使用者委員】**

そうです。それは漁船も一緒だと思います。

**【高橋（雅）労働者委員】**

資料1の6ページ、職種別取扱件数を見ればすぐ分かると思います。これで商船の場合、八戸を見ますと求人1に対して有効求職が7名もいるので、これを見れば一目瞭然だと思います。ただこれは月別ですので、トータル的なところは分からないですが。

**【高橋（真）部会長】**

この数字をグラフにできないですか。これは当月分しか毎回報告されていないので、商船でいえば甲板と機関と無線と事務、漁船も同様に、職種ごとに毎月の数字を1年分のグラフにしてしまえば、変化が分かると思います。

商船のグラフと漁船のグラフに分けて、あと甲板と機関に関しては、折れ線か実線か一点鎖線でやって、そうすればグラフは商船と漁船の2種類でできると思います。

**【斉藤船員労政課長】**

トライしてみます。

**【増田部会長代理】**

商船の八戸は求職が多いのに求人が少ないとか、逆に気仙沼の漁船は求人が多いのに求職が少ないとか、何かいろんな傾向がありそうなので、主立ったところだけでも抜き出してつくったらいいと思います。

**【斉藤船員労政課長】**

抽出ですか。

**【高橋（真）部会長】**

例えば、今回の資料では、八戸と気仙沼と石巻が一番大きいので、これが前月や前々月の段階でも同じように多いのであれば、全部ではなく数が多いここだけピックアップすれば傾向が見られると思います。

**【斉藤船員労政課長】**

主立ったところですね。

【高橋（真） 部会長】

はい。実験的に工夫していただいて、来月お願いします。

【斉藤船員労政課長】

それでまた具合悪いようであれば、ご意見いただければと思います。

(2) その他

【高橋（真） 部会長】

よろしくお願いします。資料に関して、ほかにありますか。  
なければ、次に「議題（2） その他」に入ります。  
最初に、資料8について、事務局から説明をお願いします。

[斉藤船員労政課長から資料8に基づき説明]

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございます。  
ただいまの説明に関して何かご意見、ご質問等ありますでしょうか。

【奈良労働者委員】

最賃について、具体的にはいつ頃はっきり説明していただけるのでしょうか。

【斉藤船員労政課長】

まずは局長への説明なので、それ自体は8月中には行いたいと思います。

【奈良労働者委員】

それは例年どおりということですか。分かりました。ありがとうございます。

【高橋（真） 部会長】

それでは次に、前回、事務局である運輸局のほうに、海技試験に係る養成講習の実施に関して要望があり、本日の部会で説明していただくことになっていましたので、事務局から説明をお願いします。

[菊池海技資格課長から資料に基づき説明]

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございました。  
今の説明に関して何かご意見、ご質問はありますか。  
なければ、委員の皆様からの情報交換に移りたいと思います。  
まず、労働者委員から情報をお願いします。



**【高橋（雅）労働者委員】**

宮城県の沖合底びき網漁船ですが、9月からまた3年間、水産庁の「がんばる漁業復興支援事業」を実施します。震災以降これまで2回実施され、今度で3回目ということで、今回は全船、前の2回のときは3隻ほど参加しませんでした。今回は全船12隻参加して、3つのグループに分かれ、1グループずつ漁場を点々と回っていくという計画です。今回初めて、福島県沖のある一部の漁場も操業区域に入ったということです。

もう一点、母船式の捕鯨船ですが、5月26日に下関を出港して、5月30日から漁を始め、ニタリクジラ124頭を捕獲し今月の29日に下関に入港しております。年間の捕鯨枠ですが、ニタリクジラが150頭、イワシクジラが25頭、ミンククジラが20頭ということです。2月24日から3月27日にかけて、ニタリクジラを20頭捕獲しているという状況です。

**【高橋（真）部会長】**

ありがとうございます。

**【鈴木労働者委員】**

先月、中型イカ釣りの漁模様を言いましたが、今日の水揚げを持って32隻全船入港しています。漁はありましたが、オリンピックの需要を見込んで冷蔵庫に入れていたイカが動かないということもあり、昨年度より2割弱安い中での水揚げでした。また、アカイカ漁で太平洋に向け2航海目の出港をした船もあります。

**【高橋（真）部会長】**

ありがとうございます。

ほかにありますか。

**【奈良労働者委員】**

小名浜ですが、78隻のサンマ漁船が昨年と同様にお盆明けくらいの出漁に向け、今乗組員さんが準備している状況です。

**【高橋（真）部会長】**

ありがとうございます。

それでは、使用者委員から、お願いします。

**【勝倉使用者委員】**

気仙沼では、今、生鮮カツオの盛漁期に入っていて、今年は5月からカツオ船、まき網船によるビンチョウの漁が非常に好漁で、気仙沼魚市場でも今年の水揚げは昨年比30億円プラスくらいで動いています。ですが、ここに来て、生鮮カツオの水揚げ量が、水揚げというかその漁獲内容が非常に厳しいものになって

いまして、7月の実績で去年より6億円くらいマイナスが増えています。

というのは、例年ですと2キロ、2.5キロ、3キロ、そういうサイズのカツオがメインで獲れていますが、今年メインサイズは1キロから1.5キロと非常に小さいサイズです。もう1.8キロより上というのは、1割入るかどうかというところで、小さいカツオですからカツオ節の原料とかだしの原料に使われるということから、冷凍して九州に出荷されるケースが多いです。ですから、加工原料なので非常に単価も安く、今カツオの一本釣り、気仙沼を基地に四、五十隻操業していますが、この夏、8月のお盆にかけて非常に厳しい漁になると思います。秋口はどうなるか分かりませんが、今は非常に厳しい状況です。

また、新型コロナ関連の情報ですが、気仙沼はカツオ船、高知、宮崎、そして三重を中心とした船、それとまき網船、サンマ漁船、そういった多くの漁船が出入りする港で、そして船員も全国からその船に乗船しています。そういう船員が、休暇中もしくは短期間の夏休みで一旦故郷に帰ることは、コロナ感染のリスクが非常にあるのではないかということで、船員が帰郷して、そして復船するときのPCR検査をするべきではないかという声が上がってきています。

その中で、民間のPCR検査を行ってもらえる医療機関が全国にかなり数はあって、日本渡航医学会のホームページにリストが載っていますが、東北地方では宮城県に1か所、多賀城にあります。それと、うちの会社で来週、船員へのPCR検査を塩竈の病院でやりますが、私が知る限り、調べた限りでは、その2か所しか東北地方にはありません。ですから、福島、そして宮城、岩手、青森の東北沿岸、もしくは日本海側もある中で、その2か所しかPCR検査をやってくれる病院がないので、船員の安全確保という意味でもこれからの課題になってくることは確かではないかと思います。それで、気仙沼では日本人船員へのPCR検査を乗船前にする方向で動きが出てきています。

#### 【高橋（真） 部会長】

ありがとうございます。気仙沼以外でも、このPCR検査を乗組員に対して行うという動きはあるのでしょうか。

#### 【増田部会長代理】

長期で海上に出るので、出てから感染が分かると相当大変です。

#### 【勝倉使用者委員】

気仙沼から出港する船は、全国から乗っているの、そういう船員に対してのPCR検査というのは、当社の関係船ではもう考え始めてきています。

#### 【高橋（雅） 労働者委員】

今のところ、日本人の船員から出たというのは聞いていません。

ただ、インドネシアの乗組員がこっちへ来るのに、空港で何人か引っかかったというのは聞いています。

**【高橋（真） 部会長】**

分かりました。

では平岡委員、ありますか。

**【平岡使用者委員】**

政府が二酸化炭素を多く排出する非効率な石炭火力発電所を2030年までに段階的に休廃止する方向で調整に入ったことが、7月2日報道されました。国内の石炭火力発電所は140基あり、そのうちの114基が非効率設備として、北海道、沖縄などを除く9割弱に当たる100基程度が休廃止の対象となる見通しとなっております。東北・新潟では、東北電力関連の8基を含む15基が対象となっております。

燃料の石炭はオーストラリアなど海外から輸入されておりますが、燃えがらの石炭灰や排煙脱硫用の炭酸カルシウムの原料である石灰石やその副産物である石膏は内航の主力貨物となっており、鉄鋼の減産に加え、内航海運にとっては大きな痛手になりそうです。

**【高橋（真） 部会長】**

ありがとうございました。

ほかに何かございますか。

なければ、本日の議事は終了となります。

次回は、8月28日金曜日13時30分から、会場はここ4階会議室で開催します。

◎閉 会